

総合教育会議音声データ

日時:2025/07/15 15:22~16:05

目的:令和7年度和泊町総合教育会議

ゴール:

場所:議会議事堂

出席者:町長、教育長、局長、総務課長、教育委員 A、教育委員 B、教育委員 C、教育委員 D、総務課長補佐、教育委員会次長

作成者: 総務課長補佐 重信

○総務課長補佐

皆様お疲れ様です。

本日はお忙しいところお集まりくださいまして、ありがとうございます。

令和7年度第2回和泊町総合教育会議ということで開催させていただきたいと思います。

令和7年6月議会において議員からの指摘があり、総合交流施設に関する町の方針を教育委員の皆様にお知らせし、教育大綱に代わる教育基本計画、重点的に講ずべき施策の修正について協議を行うため、本日招集したところであります。

それでは早速ですが協議に入ります。

協議の進行につきましては、町長が行います。

先ほど総務課長の方からもありましたとおり、録音させていただきまして議事録を作成し、公表することになっておりますので、ご理解のほどよろしく申し上げます。

それでは町長よろしく申し上げます。

○町長

はい、うがみやぶら一。

このたびの町長選挙で町民の皆様方の信託をいただき、引き続き2期目を任せていただくことになりました。昨日、7月14日から2期目に入っております。教育委員の皆様方にはまた引き続き、どうぞよろしく願いいたします。

それでは本日は総合教育会議にご出席をいただきまして、心から御礼を申し上げます。

本日はこれまで議論を重ねてきた総合交流施設について、私から改めてご説明を申し上げたいと思います。

私は、このたびの町長選挙において、この施設の建設計画を中止するという方針を明確に掲げ、その是非を町民の皆さんに問いました。そして、結果として、多くの町民の皆さんがこの判断を支持してくださいました。私はこの民意を重く受けとめ、今後の町政運営にしっかりと反映させていく覚悟です。

ご承知のとおり、この中止の方針は、町長選挙の前の6月議会の場において私の口から正式に表明をいたしました。

しかし、その際には、一部の議員の皆さんから、独断的であるとの批判を受け、問責決議案が可決されるという事態にもなりました。

だからこそ、本日は、総合教育会議という場で改めて、経緯や背景、そして私自身の思いをしっかりと丁寧にお伝えをし、皆様のご理解をいただきたいと思います。

この施設には、町の新たな交流学習文化の拠点としての期待が込められていました。それを否定するものではありません。しかし、町の人口減少や財政の制約、既存施設の老朽化、そして、今この瞬間に必要な子育て支援や教育環境の改善などを見つめたとき、私は立ち止まることがまちの未来のために必要だと判断をいたしました。これは単なる中止ではなく、今ある資源や人材をどう活かし、持続可能な形で教育や交流を支えていくかを、もう一度ゼロから考え直す再構築のスタートだと考えています。

本日の会議では、教育振興基本計画等に記載されている施設整備に関する文言を今後どのように整理・修正していくか、その方向性についても、皆様と協議を進めさせていただきたいと考えています。

そして何より、この施設を造らないと決めたことによって、その分の予算を、これからのこどもたちの

教育のために、そして住民の皆さんの福祉の向上のために、しっかりと活かしていくことができます。限られた資源を、人のために、子どもたちの笑顔が溢れるまちを。

そして、町民一人一人がここに暮らしてよかったと思えるまちを、私はこれこそが、人が真ん中のまちづくり、そして、幸福度の高いまちづくりだと信じています。

本日はどうぞ皆さんの忌憚のないご意見をお願いし、私からの言葉といたします。

総合交流施設を中止する。そしてそれを人のために使わせていただくという方向性を示させていただきました。そして町民の皆様方から選挙という形で、そのことを認めていただけたと、いうふうに理解をいたしております。

今回のこの会議におきましては総合基本計画の中の9ページになるんですけども、四角の(5)「生涯を通じて学び活躍できる環境づくりとスポーツ文化の振興」というところの2、「スポーツの推進」の両(6)「総合交流施設建設に関わる事業推進」という、文言について、今後、総合交流施設を造らないという方向性になりましたので、この事業推進というところを皆さんと協議していきたいと思えます。

皆さんのご意見、ご質問等ございましたらお受けしたいと思えます。

この基本計画が、そのまま大綱として利用するという方向性でございますので、その中で、今回造らないという町の方針を決めさせていただいた中で、この総合交流施設に係る事業推進という文言を、外させていただきたいというふうに考えております。ご質問ご意見等いただきましたら幸いです。

○ 教育委員 A

よろしくお願ひします。

町長6月の議会で正式に総合交流施設を中止すると、発表されております。議会の方で、もしかしたら説明されているかもしれませんが、大体いつ頃、その辺を町長自体判断されたんでしょうか。

○ 町長

はい、3月議会のときに、非常に厳しいなど説明してるところではあるんですけども、就任以来、非常に町の財政状況が厳しい中で、まず、財政を立て直すということで、しっかりと取り組ませてもらってきました。そんな中で、いわゆる起債残高もぐんと縮めることができ、前年度で大体76億まで縮めることができました。そして、町のいわゆる借金の部分を減らして、貯金の部分も約40億近くまで増やすことができました。

普通で考えると非常にいい状況になってきたわけですけども、それでもやっぱり実質公債費比率というのが非常に高い数値にあるということやはり、町にいろいろなものがあって、このまま、またさらに大きな借金をすると、色々な事ができなくなるという状況が、はっきり見えてきました。

そんな中で、限られた力、限られた予算というものを、どこに使うかといったときに、新たに大きな施設を造ってしまうと、さらに行き詰まってしまって、町民のために色々使う部分がなくなってしまう。ですから、その限られた力と予算を、人のために使う方がいいという風に判断いたしました。

これを造らないという判断をしたことによって、その分本当に色々な事が、町民の皆様のためにすることができます。ですから、この施設が、もちろん必要な部分はあるんですけども、たとえ無くても他のところでカバーできるのであれば、その分の力とお金は人のために使いたい。そうすれば、もっといろいろなことができる。という判断です。

その時に、3月議会の段階では、9月に正式な数値が出るので、そこで考えさせて欲しいというふうに話させていただきましたけれども、6月のその段階でかなり厳しいということがはっきりしたのと、それと、私がいろいろな人と話をする中で、そこよりも他のところにかけて欲しいんだという声をたくさん聞いていたので、そうであれば、そういう態度で行くよりも、ちょうど選挙という場があったので、そこで町民の皆様きちんと言を問う方がいいだろうという思いで、選挙にかけてそのことをしっかりと方向性を示させていただき、町民の判断をいただいた結果ということでございます。

○ 教育委員 A

はい。

ありがとうございます。

○ 教育委員 C

勉強不足で申し訳ないんですけども、今の町長は、総合交流施設に係る予算を、別枠で教育や文化に使っていきってというお話をされたんですけど、どのぐらいの予算を考えていますか。

交流施設の予算として、令和7年度に建設するという方向で、予算は通ったと思うんですが、その予算がどのぐらいあって、これから、その運動するとか、そういう時にはどういう施設の使い方をするのか、町長の今考えていらっしゃる人のために使うとかいうのは、どういうことなのかっていうのをもうちょっと説明していただけないですか。

○ 町長

はい。

今回予算に組んでいたいいわゆる基本設計の予算であってですね、建てるための予算は、まだ全然組んでおりませんので。実際、建てるので非常に大きな予算になると思いますけれども、その前の段階でございまして。いわゆる年間町で今年でしたら70億ぐらいの予算の中で、固定費というのがありますのでその中で、町民のために使える予算という枠が限られてきます。それを新たにまた大きな施設を作ると、そこに持っていかれるので、その使える部分が減ってしまうので、造らないことによって、その分を町民のために使えるということですよ。

具体的にこの体育館を造らなければ、これができるというのではなくて、造ることによって、更には、いろんなことができなくなりますよ。だからそれを造らなければ、もっと町民のために、その予算を使うことができますよという。意味なんですけど、よろしいでしょうか。

○ 教育委員 C

ありがとうございます。大体基本設計でどのぐらいの予算だったんでしょう。

○ 町長

そちらの方が知ってます。

○ 教育委員会次長

令和7年度予算におきましては、約3,700万円の予算を計上しておりました。

○ 教育委員 B

はい。まず、ポーリングしましたよね。

それから、土地も購入したんじゃないですかね。それがどれぐらいだったのかということと、もし、この判断がもっと早ければ、そのポーリングにかかる金とか、土地に係るかかった金とかは、必要なかったんじゃないかな、ちょっと私思うのは、何か選挙にというよりも、もっと早い判断があっても、良かったんじゃないかな。選挙に打って出るよりも、もっと早めにすれば、そういう、例えば小学校区ごとに、体育館に向けての説明会とか、城中の保護者に向けての説明も、実際したわけですよ。教育委員会として、そういうのも必要なかったんじゃないかなと思います。

○ 町長

はい。わかりました。

そういう思いがあるのがよく理解できます。

ただ、ここは、議会の場じゃないのでですね、そういう一般質問的なやりとりではなくて、今先ほど私が説明したことに対する話をする、総合教育会議ですから、そういう形でぜひ、進めていただければ。

○ 教育委員 B

もっと判断が早ければ、そういう煩しきって言ったら失礼かもしれませんが、教育委員会としての、各学校での説明とか、城中での校区集めて、いろいろあったわけですよ。そういうのも、無くてね、良かったんじゃないかな。思ったりします。

それが選挙となると、いろいろなんか交錯するので、不要なっていうか、余計な詮索とかそういうのも

起こったような気が私はしました。以上です。

○ 町長

他、よろしかったでしょうか。

総合教育会議としてのご意見をいただきたいと思います。

○ 総務課長補佐

すいません町長の意見を聞いていただきまして、教育委員の方々と意見交換を行いまして、町長の意見について同意されるということでよろしいですかね。

そうした場合に、教育大綱に代わる教育基本計画の部分の修正を行いたいと、町長が意見を言っていましたので、そこを整理・修正させていただければと思っております。

また、修正につきましては、教育委員会といろいろ相談しながらですね修正案を出して、皆様にお諮りするという形でしていきたいなと思っております。

○ 町長

はい。

その他についてはよろしかったでしょうか。

折角の会議ですので、他の点についてもですね例えば学校の問題ですとか、そういうことも、もしよろしければご意見を伺いし、できたらと思えます。中学校の問題、小学校の問題とかですね、その辺もご意見をいただければと思えます。

○ 教育委員 D

和泊町、4月当初は不登校傾向。数的に少ないですね、10名ぐらいなんですよ。それがもう年々年度末になってくると、毎年のように5・60名に増えて、これを根本的に何か変える策を、町長はじめ、その教育委員会で、何か考えて欲しいなとずっと思っています。対策があればお願いします。

○ 町長

はい、すいません僕その不登校が5・60名に増えてるという現実は今知らなかったんで、申し訳ないんですけども。そういうところを是非共有いただきまして、またいろんな場でですね、お話をさせていただきたいと思えますし、もちろん教育委員の中で、いつもそういう会話が、話が進んでと思うんですけど。ぜひ教育長と協議いただきましてですね、私の方にもそういう情報をいただければと思えます。

○ 教育長

はい。ありがとうございます。

先ほども、定例教育委員会の中で、今月の不登校の状況とか、そのあたりを共有したところだったんですけども。その中で、私の方からちょっと情報として申し、お話をさせていただいたのは、この前、県民大学講座の中で、不登校のお話を聞く機会がありましたので、それを少しお話させていただいたところだったんですけども、不登校の改善を図っていくときに、私たちは、よくこの子の不登校の原因はどこなんだろうかと。何で、この不登校の状況に陥ってるんだろうか？といったようなことをまず考えて、それを何とか解決してあげたいという思いで、その辺りを取り組んでいくのが普通だったんですけども、なかなかそれをして解決には繋がるというのは、そうそうは無いですよといったようなお話でした。

それよりも、こどもが今できていること、例えば朝早く起きられないけれども、10時ぐらいだったら起きられる場合、すごいね10時に起きられるんだね。これを30分早くしてみようか、9時30分にしてみようかって言ったような取組で、スローなんですけれども、それを着実にこどもが実践できるような取組みをしていくと、効果が現れてきますよといったようなことを先ほど、教育委員会の中で話をさせてもらったところなんです。増えていく傾向の子供たちに対しまして、今現在、教育委員会としましては、民間ではあるんですけども、教育支援センター「ダヴィンチ」の中で取り組んでくださってる、本来であれば、ここを教育委員会の方で、そういう施設を作って、困り感のあるこどもたちに対して手を差し伸べていかなくてはいけないところなんですけれども、それをするにはやはり施設も造らないといけない。

そこで働く人も雇わなければいけないということで、民間のところに依頼をしているところなんです、今現在、そこを活用している、利用している児童生徒も、少しずつ増えてきているような傾向が見られますので、そこの連携も図りながら、こどもたちが少しでも将来に向けて、自立して生きていけるような方策を考えていきたい。

はっきりとした、これをしていけばってというのは見つからないんですけども、そういう方向を模索していきたいというふうには考えているところです。教育委員の皆さんとまたそのあたりも知恵を出し合いながら、不登校を、なお、そういう状態にあるこどもたちが少しでも、無駄な時間だったな、自分の学校に行けなくて、家でずっと過ごしていたあの時代というのは、全く無駄な時だったなって思わなくて済むような、方向性を、方策をまた考えていきたいという風に思っているところです。以上です。

○ 町長

はい。

ありがとうございます。

今の教育長の意見に対して何か、よろしかったでしょうか。

○ 教育委員 B

不登校の問題ですけれども、私ちょっと社協に関わってるものですから、これもうこどもの責任じゃない。こどもの力でどうしようもないという家庭も見受けられます。

学校だけでは駄目だし、町の保健福祉課とか、あるいは、こども未来課とか、全体で取り組んでいかなければならないような事案も、ありますので、ぜひ総合的にですね。どこがすればいいというのではなくて、取りまとめ役はあるけれども、いろんな形で関わっていく。

そういう家庭もありますので、ぜひそのあたりも、学校だけではどうしようもない、そういうところ、そして先ほど教育長先生からありましたけど、地域を巻き込んだ取組をこれから教育委員会としてやっていきますので、ぜひ行政側もそちらの方にバックアップをお願いしたいと思います。以上です。

○ 町長

ありがとうございます。本当に多様化という表現がいいのかわからないんですけども、いろんなこどもがたくさんいるわけで、昔は画一的に育てようとしていたんですけども、今はそれぞれがあっていいという、いわゆるこどもたちも、デコボコが悪いというわけじゃないですけど、デコボコの人達がいて、そういう人たちをきちんと受け入れる必要があると思っています。

ですから、全て学校で受け入れなくてもこどもたちに、選択肢があるということはとても大切なことだと思っていますので、例えば、先ほど教育長先生がおっしゃったダヴィンチですとか、あとスマッピーですとかいろいろなところがあってですね、療育の施設も最近できておりますし、そういうところを利用していただきながら、こどもたちがそれぞれの輝ける場所といいますか、きちんと学べる場所の選択肢をたくさんつくってあげる必要があるのではないかなという風に思っています。

もちろんそういうところが今増えてくることによって、財政的な話をすると申し訳ないんですけども、もう倍・倍・倍と伸び増えて膨れ上がっています。でも、それは必要なものだと思っています。

ですから、今後、そういうところの予算も確実に膨れ上がっていく中で、そういうの対応できないから削れというのではなくて、そこはきちんと対応していくべきだと思っていますし、だからそういうところにきちんと予算を使えて、こどもたちを育てていくためにも、今回の判断は、最終的には苦肉の策であったんですけども、そうしなければ、1人のために予算が使えないという現実も、ご理解いただければと思います。

そのところは、これからもきちんと対応していったって、こどもたちの学びの場というのは、しっかりと残していきたいですし、選択肢を増やしていきたいという風に考えております。もちろんその現場に立っていらっしゃるのは、教育委員の皆さんであり教育委員会ですので、皆さんに、いろいろご意見をいただきながらですけども、ぜひもっともっと情報共有していただいでですね、一緒に前に進めていければと思っていますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○ 局長

教育委員の先生方にもちょっと考えていただきたいところがあるんですけども、この交流施設事業が中止ということですので、その代わりに何かできないかと思っております、それは体育館の空調整備についてお考えいただけないかなと思っております。

この間、大島地区大会等も見て参りましたが、やはり空調がない中でのスポーツ、体育、そういったものをこれからやっていく中では、どうしても、支障を来す熱中症対策とかですね、そういったものが今後していかないといけない中で、国の交付金が令和 11 年度ぐらいまでありますが、そういった有利な事業がございます。これを各体育館に造っていきたい。

町長のお考えの中では、まず和泊中学校の使用頻度が一番高いということで考えておられると思いますが、各小学校中学校、これもやはり公平公正と一緒に整備できるのが理想ではありますが、まずは予算が結構 1 億近くかかるものがございますので、費用対効果というよりも、投資していかないと、今後、学校の統廃合も関係して参りますが、そういった環境整備というのが、やっぱり子どもたちの未来を考えていく中でも、必要なことかなと思っておりますので、ご意見いただければと思います。

○ 教育委員 C

局長から、体育館とかの空調設備ということであったので、私、今現場にいますので、子ども達の体育は体育館でするのが、難しいんです。

もう校庭では、昼休み子どもたちは遊ばせん。熱中症警報が出てるので、放送をかけて、教室で遊ぶようになってます。

また、プールの水温が 34 度でした。何か温泉に入ってる、風呂に入ってるみたいって子ども達の声です。熱中症になってしまった子どももいて、教育委員会がガードをつけてくださったんですけど、プールの参観日も、保護者はすごい日差しの中で見えています。どこかの学校で、お尻が火傷したっていうのもありましたので、やはりちゃんと日陰をつくる考えも、この予算の中でやって、しばらくしかプールは使わないんですけど、もう昔と違って、それだけの温度になってますので、是非とも、先ほどの局長の、話にもあったように、空調設備とか考えていただけたらなと。

○ 町長

はい。

ありがとうございます。ぜひそのところはですね特に体育館なんかも進めていきたいなと思っております。ただ、予算が関わるものですから、順番にしかできないというのと、プールも、まだまだ全然先の先の先の話なんですけども、今それぞれの学校にプールがあつてですね、使う期間も短くて、なかなか、修理とかいろいろたくさんかかるのでですね、できたら次の次の造る時には、屋内プールを一つ造って、きちんと温度管理もそれこそお風呂に入るんじゃないかなとですね。

年中使えるようなプールが 1 つあれば、スクールバスで回せばいいわけですので、きちんとした管理のできるプールが 1 つ欲しいなというふうに思っております。

そうすることによって、年間通して、専門のコーチも入れれば、もっと泳げる、子ども達も増えるのかなと思っております。

この間の小学校の水泳記録会においても、やはり国頭小学校の子どもたちは飛び抜けて泳力があります。それはやはりきちんと講師がついていて、その遠泳大会に向けて練習を積んでいるので、それこそ 100 メーターという長い距離を泳げるのはもう国頭小学校の子どもたちがほとんどです。ですから、やはりそういう場を作って、きちんとトレーニングを進めれば、みんな同じように泳げるはずではあるので。そういう水泳の、目指す子どもたちのためにもそういう環境も造ってあげたいなというふうに思っています。

確かにプールは暑いですし、お尻が火傷するような状況にあるのわかっていますが、今後、気候変動でこれから更に激しくなっていくでしょうし、もっともっと暑くなってくると思っておりますので、ですからそのところも考えながら、環境づくりに尽くしたいと思っております。

○ 教育委員 B

クーラーの件が出ましたので、普通教室はクーラーがついておりますけど、特別教室にはクーラーが、まだついてないと思っておりますけれども。ぜひ、家庭科室とかですね、やっぱり勉強する場所は同じような環

境ができればいいなど。思ってるところです。何と言っても、こども達すぐ内城小学校に行った時は、もうすぐ廊下に出たがるんです。廊下に出た方が涼しいね、理科室はクーラーがなくて、隣の部屋から流れてる冷気を喜んでいるぐらいの状況でしたので、ぜひ、計画に入れていただければと思います。

○ 総務課長補佐

はい。

ありがとうございます。

○ 町長

そこは段階的に、でも、大分少ないんじゃないですか。

○ 局長

理科室につきましては、内城小学校は今年度に整備がされると思います。結構そういった、あと学童で使われる理科室等とかありますので、そこについては、もう空調整備するということで今進めております。

○ 町長

はい。それとですね。もう中学校の統廃合については、多分話が進められているのではないかなと思うんですけども、今後に向けてまたぜひ小学校のところも、そろそろ話題に上げていただけたらという風に考えております。

私もずっと地域コミュニティを守るために小学校は、このままでいく方がいいという思いであったんですけども、やはりいろんな学校を見たり、また、学校の先生の配置の状況も見たりしたときに、こどもたちにとってどちらが正しいのかなという風な思いもございます。そこは、それぞれいろんな考え方があるのはよく承知しておりますけれども。やはり地域の皆さんにも投げかけてですね、みんなでそのところはもうそろそろ議論を始める必要があると思っておりますので、ぜひそのところも進めていただければという風にお願ひしたいと思ひます。これは、多分ですね結論を出す会議ではないのでですね、どうぞ皆さん、忌憚のないご意見をいただければと思ひます。

○ 教育委員 C

今、学校の統合問題が出ましたので、やはり住民も交えて討論をすれば、フラットに語り合う場っていうのはすごく必要じゃないかなと思ひます。それは割と高齢者の方は無くして欲しくない。でも保護者に聞くと、いや、統合したほうがいいんじゃないか、なぜかっていうとやっぱりこどもたちには、こどもの成長にはある程度的人数がいた方がこどもたちの成長にとってはいいんじゃないかなっていう考えもありまして、保護者の方はそんな考えを持っています。違う人もいるかもしれないんですけど。それを何かフラットに語り合える場っていうのが今、全くないので、そういうことも小さな話題にしていけたらなと思うことと、あと、いいです、ここまでです。

○ 町長

はい。

ありがとうございますぜひ教育委員の皆さんの方ですねそういう提案をいただいて、教育委員会を中心に、ぜひそういう語る場をスタートしていただければと思ひますので、教育長、どうでしょうか。

○ 教育長

はい。ずっとおっしゃるように話題に出てきておりますので、それで、中学校の方のあり方委員会をまずはということで準備を進めていたところですけども。その中で、担当をしている職員が両方の中学校よりもまずは、城ヶ丘の方でやってみたいということで、城ヶ丘中学校の方で語る会開催に向けて進めているところです。

○ 町長

ありがとうございます。

できたら小学校も、やはり時間のかかる問題だと思いますので、話し合いを始めていただければと思います。

○ 教育委員 C

すみません、先ほど言い忘れていたことを思い出しました。学校の統合問題を語るときに、統合した後、学校が空くところがありますよね。そこをどのように使うかっていう両方についても、島の経済的なあと、若者たちの定着とか企業とかもありますので、その辺も一緒に議論する場があるといいかなと思います。

○ 町長

はい。

ありがとうございます。

使い道もたくさんあると思いますので、ぜひ、進めていただけたらと思います。他、よろしかったでしょうか。補佐の方でまとめて。

○ 総務課長補佐

先ほどですね、町長からもありましたとおり、今回の会議は、調整の場でありますので、皆様からいただいた意見を参考に、今後、教育委員会と町長部局等で良い方向に検討していくということできせていただきたいと思います。

それですね、本日の議事録をまた作成しまして、ホームページに公開したいと思っております。ご了承のほどよろしくお願いいたします。閉会でよろしいでしょうか。

令和7年度の第2回和泊町総合教育会議を閉会したいと思います。ありがとうございます。